

令和4年度 第2回宝達志水町文化財保護審議会 議事録

日 時：令和4年8月30日（火） 午後3時00分～午後4時00分
場 所：宝達志水町埋蔵文化財センター 2階 研修室

出席者

委 員：出倉委員、村上委員、山岸委員、秋田委員、末森委員、
金山委員、大窪委員

事務局：細江教育長、宮本課長、竹森主事、麦居主事

次 第

- 1 開 会
- 2 教育長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 令和4年度能登文化財保護連絡協議会について
（1）能登文化財保護連絡協議会宝達志水大会について
（2）自然保護特別委員会現地調査について
- 5 その他
- 6 意見交換
- 7 閉会あいさつ（副会長）

議事録

（令和4年度能登文化財保護連絡協議会について）

●能登文化財保護連絡協議会 宝達志水大会について

出 倉：10月4日の能登文化財保護連絡協議会の総会・研究大会の件で説明がありました。この件について、先生方のご意見をお聞きしたいと思えます。一つ、問題となり得るのはコロナウイルスの問題ですが、この点については事務局の説明にもありましたように、理事会の場で七尾の事務局と開催地の町とで開催の有無を決定する旨の了承は得ているとのことでした。

村 上：（文化財研修については）これくらいの日程でしか動けないと思えます。

事務局：文化財研修につきましては、移動時間を含めて1時間30分ほどですので、2か所が限界だと思えます。

村 上：川畑さんの話に合わせた展示を埋蔵文化財センターで企画できれば良いと思います。他の市町の方をお招きしてもみすぼらしくならないような解説パネル等を設置できるよう配慮していただければと思います。

事務局：杉野屋専光寺遺跡については、川畑さんの講演の中で取り上げられるものと思います。以前に埋蔵文化財センターでも企画展示をしたこともございます。川畑さんとも連絡をとりながら、展示できるよう検討してみます。前回の会議で、川畑さんに文化財研修へ同行をお願いできれば・・・、というご意見もございました。

村 上：考古学の専門家は委員の中にはいないので、同行していただけるのであればお願いした方が良いでしょうと思います。

事務局：川畑さんの予定次第ではありますが、基調講演後も文化財研修に同行していただけるか打診してみたいと思います。

出 倉：川畑さんに、できれば文化財研修の場での説明もしていただければとの意見ですので、交渉の中で決めていただければと思います。

秋 田：委員は参加するだけで大丈夫ですか。

事務局：岡部家・埋蔵文化財センターの説明については町職員でおこないます。川畑さんに同行していただけるのであれば、展示の解説などは川畑さんをお願いしたいと思います。委員の方々には、出席していただくことで、ご協力いただければと思います。

秋 田：もし、何かありましたらご協力いたします。

事務局：話を詰めていく中で、もしご協力いただくことが生じましたら、その時はお願いします。

教育長：町の委員であるということを示す腕章のようなものはあった方がよいですか。不要であればなくても良いと思いますが・・・。

事務局：志賀町大会の時、福浦の灯台の説明を(志賀町の)委員の方がしていましたが、腕章のようなものは身に付けていなかったと思います。なので、特に腕章などは必要ないと思います。

出 倉：委員の方々には出席というかたちで協力していただくことの確認、作業等に関しては現時点では考えていない、腕章等を身に付けない、ということでした。

●自然保護特別委員会現地調査について

末 森：昨日、山の龍宮城に行ってきました。撤去されると言うことでしたので。東間から登る道が通行止めとなっていました。問題はありますか。

事務局：宝達山に行き慣れていない他市町の方々をご案内しますので、道幅の広い県道の上野口から案内しようと考えています。

末 森：龍宮城の解体は9月中頃までかかると聞いています。解体がいつ終わるかの確認は取っておいた方がよいと思います。工事車両が行き来していると思いますので。

事務局：日程を調節している段階では、9月27日には終わっていると聞いていますが、計画が延びている可能性もありますので、商工観光課の担当者を確認を取ります。担当者によりますと、龍宮城は解体しますが、ウッドデッキは残すと聞いています。27日に間に合えば、ウッドデッキからの眺望を見学していただこうと考えています。

出 倉：金山委員が説明される、地表がでていところの草刈りなどは必要ですか。

金 山：9月に下見に行く際に、鎌で刈っておく程度でよいと思います。

事務局：現地を見て、必要であれば検討していきたいと思います。

秋 田：駐車場から山頂まで歩いていくのですか。

事務局：歩いて10分から15分ほどかと思います。山頂までの道は、アサギマダラの餌場を守るため最低限度の草刈りしかしていないと聞いていま

す。車の側面を擦りますし、道幅も狭く駐車場も多くはないので、歩いた方がよいと思います。自然保護部会に参加される方はフィールドワークに慣れている方々なので、徒歩でも問題はないかと思います。

出 倉：距離・健脚状況など心配なところもありますが、足の不都合な方に対して車を1台出すようなかたちで対応し、基本は歩きということによりしくをお願いします。

末 森：熊情報はありますか。最近あまり話を聞きませんが、熊鈴は持って行った方がよい気はします。

事務局：担当課に話を聞いてみます。

出 倉：熊鈴を持っていった方が安全かと思います。

村 上：9月ぐらいはスズメバチが危ない時期ですので、スズメバチの状況は確認した方がよいと思います。

事務局：徒歩で歩く場所や説明を聞く場所の周りは確認しておこうと思います。

出 倉：安全対策への配慮もお願いします。

(その他)

●植物等に関する調査報告について

山 岸：菅原こんねりの木が道路の拡張などで少なくなっていると聞きました。文化財になるかは分かりませんが、由緒ある柿なので保存してもらえればと思います。

事務局：果樹を指定している自治体は、県内だと聞いたことがありません。果樹は農作物になりますので、指定はあまりないことです。もし、菅原こんねりを保存・管理していくとなると、紋平柿もそうしたらどうだという話になってきかねない。こちらは農作物として販売しています。こんねりだけを保存・管理するというのは現状難しいのではないかと思います。こんねりの木がわずかになってきたということにでもなれば、対応を検討しなければならないとは思いますが、話を聞く限りでは各家に数本生えているということは聞いていますので、すぐに対応しなければ

ばならないような状況ではないと思われます。

出 倉：5月下旬に千木先生が来られまして、ゼンショウジキクザクラに肥料をやりました。その足で、原地内に赴き、指定候補の2つの植物についてお話を伺いました。私も「バケザクラ」を見ましたが、杉の木に囲まれて、枯れている状況が進んでいるように感じました。また、キリシマツツジに関しても、大きいもので、所有者が金沢から来て世話をしておられるということです。名前も知れ渡っているようで、結構有名なツツジだそうです。千木先生もおっしゃっていましたが、この積雪で自然に育っているのだからこのままの状況で見ていくのはどうかという感じでした。

事務局：下手に手を加えたら植物もそれに頼ってしまうということでした。

出 倉：すごく印象的な言葉だったと思います。町として保存するかどうかというお話につきまして、ご意見いかがでしょうか。

秋 田：柿の件ですが、柿にもいろいろな品種があります。その中の一つの品種となれば、特別取り上げる必要はないと思います。その柿が、原種に近く、そこから派生していったものということであれば、価値はあると思います。そのあたりについてはどうなっていますか。

事務局：地元の方に聞き取りをした範囲でしか分かりませんが、県の方が調査した時に遺伝子とかの分析をしたかどうかというのは確認していないので、今のところは分かりません。そのときの報告書などがあれば確認してみたいとは考えています。

出 倉：柿については、各在所でいろいろな呼び方をした柿があるはずです。私のところにも「ムヘイ柿」というのがあります。山手の方なら、こうしたいろいろな呼び方をした柿が残っていると思います。

秋 田：その地域に根付いたものなら、その地域の柿として残っていると思います。

村 上：柿は、蔵とか家の防火対策として植えられました。柿は糖分が多くて燃えません。なので、柿の木が死んでも家を守ってくれて火災が止まる。

食べるということもありますが、防火対策として植えられました。

出 倉：菅原こんねりについては、調査事例が少なく不明な点も多いということで、これに関しても今のところ保存していくことについては難しいのではないかと話でした。原のキリシマツツジ、「バケザクラ」に関しても、指定の対象にはしにくいのではないかとご意見でしたが、そのように審議会としてまとめておきたいと思います。

(意見交換)

村 上：かほく市では、市史の編纂が始まりました。市制30周年に完成を目指しているそうです。宝達志水町は今年で町制17年です。やがては宝達志水町でも自治体史の編纂はしなければならないと思います。いずれ宝達志水町の町史を編纂するためにも、今のうちに地元の古老の話を貯めておく必要がある。民俗のことや自然のことなど、データとして集めておく作業はしていかなければならないと思います。町で指定する・しないにしても、そうした作業はしていかなければならないと思います。

出 倉：立ち上げという話になりますと、近々私らの方にも責任が出てくると思います。心しなければならぬのではないのでしょうか。それぞれの在所において、いろいろな史料や伝承があります。それらを私たちが記録していかないといけない。できたら、ここにいるみなさまの中で、それぞれの集落の中で残っている伝承等をぼちぼちとまとめておくことが、いまほどの話にも繋がってくる気がします。そのようなことで、心がけの程ひとつよろしくをお願いします。